

全国の火山活動状況(1984年1月～3月)

気象庁観測部地震課火山室

気象庁が常時観測を実施している17火山のうち、精密観測4火山については、1984年1月以降3月末までの活動状況を、普通観測13火山とその他の火山については火山情報、火山性異常の報告をうけたものの状況を要約した。

火山情報発表状況は第1表に、全国火山活動概況を第2表に示す。

第1表 火山情報発表状況
(1984年1～3月)

火 山 情 報 名	桜 島	阿 蘇 山	浅 間 山	伊 豆 大 島	草 津 白 根 山	三 宅 島	霧 島
定 期	3	3	3	3		1	1
臨 時	3	1			1		
火山活動							

第2表 全国火山活動概況(1984年1～3月)
Table 2 Volcanic Activity in Japan
(From Jan. 1984 to Mar. 1984)

Volcano	Month	1	2	3
Sakurajima		▲	▲	▲
Suwanosejima		▲		▲
Fukutoku-Oka-no-Ba		△	△	△
Kaitoku Kaizan				▲

▲ Eruption △ Anomaly

桜 島

噴火活動、地震活動とも高いレベルの活動を継続している。このため、噴石の落下による、自動車のフロントガラスの破損、爆発の空振によるホテルの玄関のガラス破損等の被害が発生した。噴火回数、爆発回数の月別推移は第3表に示すとおりで、また同表の微動継続時間合計は火山灰噴出の動向と関連が深い。

主な爆発とその状況は次のとおりである。

- 1月4日19時28分の爆発は、爆発音・体感空振とも中程度の大きさであったが、火口上には火柱・火山雷が見られ、多量の噴石を5合目まで飛散させた。警察署垂水幹部派出所からの連絡によると、桜島の南部有村地区にこぶし大の噴石が落下し、国道を走行中の車1台のフロントガラスが割れた。

- 1月10日14時57分の爆発は、爆発音・体感空振ともに大きく、中量の噴石を5合目まで飛散させた。桜島の東部黒神小学校では、この爆発による空振で出入口の引戸ガラス1枚が割れた。

- 1月11日21時40分の爆発でも古里温泉街のホテルで玄関のガラス2枚と東桜島町の民家の窓ガラス1枚が空振で割れた。

第3表 桜島火山観測資料

月	1	2	3
噴 火 回 数	32(22)	38(26)	40(36)
地 震 回 数	3616	4138	2707
微動継続時間 合 計 (h)	243	240	51

()内: 爆発回数

- 2月4日23時44分の爆発は、爆発音・体感空振とも大きく、火山雷や鳴動を伴い、火口上に火柱を700mまで上げ、多量の噴石を4合目まで飛散させた。
- 2月17日06時28分の爆発は、爆発音・体感空振とも大きく、爆発音は宮崎市でも聞えた。
- 3月8日07時24分の爆発は、やや多量の噴煙を2000mの高さに噴き上げた。有村地区では、火山礫により、国道を走行中の車1台のフロントガラスが割れた。
- 3月30日18時53分の爆発は、爆発音・体感空振とも大きく、鳴動を伴い、多量の噴石を3合目まで飛散させた。南岳南西側3合目付近に山火事が発生した。

阿蘇山

中岳第1火口は引き続き全面湯だまりのままで、3月に入って湯量がやや増加したほかは、特に目だった変化はなく、薄い緑色の状態が続いている。

火山性地震回数は第4表に示すように、2月から大幅に増加したが、これは2月21日から火口付近に発生する小さな地震が群発傾向となり、2月末までの発生回数は261回となったためである。3月に入って回数はやや少なくなったが、同じような地震が続いた。

なお、赤外線放射温度計による湯だまりの表面温度は次のとおりである。

2月21日 51℃、3月25日 52℃

1月は噴気や湯気の量が多く、観測できなかった。

第4表 阿蘇火山観測資料

月	1	2	3
地震回数	56	330	305
孤立型微動回数 (0.5μ 以上)	371	531	435
連続微動平均振幅 (μ)	0.2~0.1	0.1~0.2	0.2~0.1

浅間山

1月から3月までの地震回数は第5表のとおりで、地震活動は引き続き低調であった。また、噴煙は多いときでも、中量がときどき観測される程度で、噴煙高度は最高300mであった。

伊豆大島

1月から3月までの地震回数は第6表のとおりである。

1月の地震活動は、前月の12月30日から31日にかけて、大島及びその付近で起った群発地震と思われる地震が引続き多数記録された。そのうち、大島測候所では、1月12日、30日、31日にそれぞれ1回ずつ人体に感ずる地震があっただけで、そのほかは無感地震であった。また、地震の発生回数は次第

第5表 浅間火山観測資料(地震回数)

月 観測所	1	2	3
A	32	21	8
B	148	154	102
C	110	107	65
D*	11	8	1
E*	59	43	24

* : 昭和59年1月1日からD, E点で観測を開始した。

第6表 伊豆大島火山観測資料(地震回数)

月 観測所	1	2	3
A	49	2	11
B	97	10	15
C	167	14	25

に少なくなって、2月にはいつてからは、ほとんど記録されなくなった。3月にも、同じ地域に起ったと思われる地震が時々記録され、25日には、測候所で人体に感ずる地震があった。

1月24日、2月9日、3月2日に火口の現地観測を実施したが、特に変りはなかった。

草津白根山

昨年12月21日に小噴火があり、その後も表面活動は活発で、一部の火口から白煙が見られた。

一方、地震活動もまだ平常レベルを可成り上廻った状態であった。火山性地震は次のとおりである。

月	1	2	3
回	68	44	45

三宅島（三宅島測候所 3月13日火山情報）

火山性地震の月別回数は次のとおりである。

月	1	2	3
回	32	30	49

この中には、三宅島近海の地震も含まれている。

3月7日、8日に雄山の現地観測を実施した。噴気地帯の噴気量は前回（12月）に比べてやや多く、噴気温度や地中温度もやや高目で、地中温度の最高は98℃であった。しかし、22日の観測では91℃であった。また、噴気地帯の広がり認められた。

なお、新鼻での現地観測の結果は次のとおりである。

2月10日	435℃
3月7日	320℃
3月22日	375℃

雲仙岳

1月から3月までの雲仙岳の地震活動は、1月20日（震度Ⅰ）、2月4日（震度Ⅱ）に有感地震をそれぞれ1回観測したが、全般に穏やかであった。

月別地震回数は次のとおりである。

月	1	2	3
回	58	56	55

霧島山（鹿児島地方気象台 1月17日火山情報）

1月10日～11日に御鉢火口と新燃岳山頂火口の噴気地帯の現地観測を実施した結果は次のとおりである。

新燃岳山頂火口内第6火孔の噴気温度は前回(昭,58. 8.10)より44℃昇温して, 166℃に達していたが, 硫黄の昇華状況など前回とほぼ同じであった。

諏訪之瀬島(諏訪之瀬島分校報告)

1984年1月 爆発 (2, 26~30日)

3月 " (13~18日)

海底火山(海上保安庁水路部の情報による)

海徳海山

変色水視認(3月7日変色水発見, 9日, 14日, 15日, 22日~24日, 29日)

変色水, 浮遊物, 白煙視認(3月8日, 12日, 13日, 16日~18日, 26日*)

* : 浮遊物のみ

福徳岡の場

変色水視認(1月30日, 2月23日, 3月15日)